活動番号

1

ここでまた、再び。
～東京で繋がる南越前町～

清水　萌音、髙橋　啓夏、石田　優汰

■活動内容
【同郷会実行委員会の発足】
同郷会の円滑な運営と継続的な実施体制を築くため、関東圏在住の出身者、福井県東京事務所、および大学（ゼミ）が連携した「同郷会実行委員会」を発足させた。委員は、関東圏在住の南越前町出身者3名、福井県東京事務所職員1名、奥山ゼミナール学生6名、教授1名の計11名で構成した。
【南越前町同郷会の企画・運営・開催】
東京都港区「ふくい南青山291」を会場に、「第3回南越前町同郷会～ここでまた、再び～」を開催。当日は町長をはじめ、関東圏在住の出身者や関係者20名が集い、対面での交流を通じて郷土への想いを共有する機会を創出した。
【SNSの活用と関係機関との連携による周知活動】
幅広い世代への情報到達を目指し、従来の「公式LINE」の継承に加え、新たに「公式Instagram」を開設・運用した。あわせて、福井県人会や道の駅等の既存ネットワークとも連携し、オンライン・オフライン両面から多角的にイベントを周知した。

■町との関わり
【町内フィールドワーク】
本年度は南越前町を２回（6月27～28日、11月29～30日）訪問し、地元企業や地域住民に対するヒアリングを通し、プロジェクトの協力依頼や情報収集を行った。今庄つるし柿フェスタ（11月30日）では、同郷会の周知も兼ねてイベントに参加し、地域コミュニティとの交流および参加促進を図った。
【訪問場所】・南越前町役場・道の駅南えちぜん山海里　・花はす公園・花はす温泉　そまやま・今庄駅・忠兵衛そば・北前船主の館右近家　・株式会社杉休・Daisan・リトリートたくら・昭和会館・sou’s coffee roastery・古民家レストランらんたん
【町特産品の提供】
「ふくい南青山291」の施設責任者へ福井県商業・市場開拓課と町との連携により特産品の提供を行うことができた。
・日本酒 雪きらら、鳴り瓢
・今庄つるし柿のチーズカナッペ
・藤梅を使ったおにぎり

■情報発信・共有
[デジタルツールの活用]
公式LINE：昨年度の参加者も登録している「公式LINE」を運用。5月から定期的に9回の情報発信を行い、継続的な関心の維持に努めた。
Instagram：ゼミ公式アカウントに加え、南越前町に特化した外部アカウントを活用し、イベントの告知を実施した。
[対面での周知活動]
福井県のアンテナショップ「ふくい南青山291」で開催(10月1日)された東京福井県人会「イエロー会」に参加。
[チラシ配布・掲示]
道の駅等への設置： 町内の道の駅などの公共スペースにチラシを設置・掲示。
イベントでの配布：「つるし柿フェスタ」の会場において、チラシの配布および対面での説明を実施した。明治大学で実施された（11月15日）福井県連携講座「蔦屋重三郎の仕事と和紙の世界」において、参加者にチラシを配布した。

■成果（変化）
【同郷会の成果と波及効果】本年度は、昨年度再開したコミュニティをさらに発展させるべく、SNS活用と対面イベントを組み合わせた運営に取り組んだ。公式LINEの運用を引き継ぎ、情報発信の基盤を整備するとともに、実行委員会を発足させ、次年度以降も「出身者・行政・学生」が協働してコミュニティを支える持続的な運営体制を確立した。集客面では、昨年度（12名）から10名増の計22名を目標として掲げていたが、応募者数は18名（実参加17名）に留まり、全体数としての目標達成には至らなかった。しかしながら、新規応募者が9名に達するなど、新たな参加層を拡大できたのは大きな成果といえる。さらに、参加者の中には定年退職を機にUターンを予定している人もおり、今後は関東圏の同郷者ネットワークと南越前町の地域側とが相互に行き来する「立体的な交流」へと発展していくことが期待される。
【参加者の反応】 「料理が美味しく、学生の活動報告を通じて故郷の新たな魅力に気づくことができた」「同郷同士、地元の話題で盛り上がれて非常に有意義だった」といった肯定的な声を多くいただいた。一方で、「より多くの人が集まるような告知の工夫」や「日中開催の検討」などの具体的な要望も寄せられた。
【活動を通じた自身の変化】約1年間の活動を通じて、南越前町の人々が町に寄せる強い想いに触れる機会が多くあった。人口減少や過疎化といった課題は存在する一方で、住民同士のつながりが強く、地域全体の心理的な密度が高い町であると感じた。都市部で生まれ育った私たちにとって、地域は居住地としての側面が強く、土地そのものに特別な思いを抱くことは多くなかった。しかし、活動を通じてお話を伺った町の方々が、「南越前町をつないでいきたい」「盛り上げていきたい」という思いを共有していることを知り、都市部出身者との意識の違いを実感した。同郷会は、こうした地域内の思いを外へと運び、共有する貴重な場として機能している。プロジェクトの任期は終了するが、今後は一人の支援者として、この同郷会というコミュニティがさらに発展し、次世代へと受け継がれていくよう、その波及に継続して貢献していきたいと考えている。

■活動に関する写真等

▼同郷会ポスター

▼道の駅でのポスター設置

活動番号

2

南越前の風、東京へ。

片岡　千宙、吉田　麗央、山口　陽翔

■活動内容
【南越前町の特産物・特産品の調査】
　現地の生産現場や販売拠点での調査を実施した。具体的には、「株式会社杉休」を訪問し、生産者の方から直接、商品のこだわりや製造過程における想いを伺った。また、「道の駅 南えちぜん山海里」では、駅長へのヒアリングを行い、売れ筋商品の傾向や今後の展開についての相談を実施した。
【浅草「ちいきと」における特産品の販売・情報発信】
アンテナショップ「ちいきと」内のスペースを活用し、現地調査で得た知見をもとに特産品の展示・販売を行った。浅草を訪れる観光客や都内居住者に対し、生産者の想いや道の駅での知見を交えた対面接客を行った。
【今庄つるし柿ワークショップの企画・開催】
　伝統文化への関心を高める体験型イベントとして「今庄つるし柿ワークショップ」を「ちいきと」内で開催した。イベントでは、参加者と共に今庄つるし柿の試食を行いながら、生産背景の解説やクイズ企画を通じた南越前町の魅力発信を実施した。

■町との関わり
[町内フィールドワーク]
本年度は南越前町を２回（6月27～28日、11月29～30日）訪問し、地元企業や地域住民に対するヒアリングを通し、プロジェクトの協力依頼や情報収集を行った。
[訪問場所]
・南越前町役場・道の駅南えちぜん山海里　・花はす公園・花はす温泉　そまやま・今庄駅・忠兵衛そば・北前船主の館右近家　・株式会社杉休・Daisan・リトリートたくら・昭和会館・今庄駅・sou’s coffee roastery・古民家レストランらんたん
[イベント参加]
今庄つるし柿フェスタ（1月30日）：今庄つるし柿の体験や、地元食材を使用した郷土料理、つるし柿スイーツを味わうことができる「今庄つるし柿フェスタ」において、運営補助を行った。
　本事業では、同郷会の周知も兼ねてイベントに参加し、地域コミュニティとの交流および参加促進を図った。 当日は、柿の皮むきやつるし柿の吊るし方に関するレクチャーを行う体験コーナーの運営補助を担当し、来場者に対して今庄つるし柿の魅力や伝統的な製法を伝える機会を創出した。

■情報発信・共有
[公式LINEの活用]
「南越前町同郷会」周知のために運用されている「公式LINE」を活用し、ワークショップの開催告知を配信した。
[Instagramによる発信]
「奥山ゼミナール」公式Instagramおよび、「ちいきと」の公式Instagramにて告知を実施した。
[対面での周知活動] 福井県のアンテナショップ「ふくい南青山291」で開催された（10月1日）、東京福井県人会「イエロー会」に参加し、直接告知を行った。

■成果（変化）
【ワークショップの波及効果 】ワークショップを通じて商品の背景や生産者の想いを深く伝えた結果、2週間の期間限定で開設した特産品販売ブースでは、店舗の通常売上ペースを大きく上回る勢いで購入が進み、現在、店頭在庫はほぼ完売の状態となっている。なお、本ブースでの追加仕入れおよび販売の予定は現時点ではないが、体験を通じて「背景」を伝えることが、消費者の購買意欲と強い関心に直結することを実証できた。また、本取り組みは「今庄つるし柿フェスタ」の認知度向上にも寄与しており、来年度以降の継続的な観光客誘致へとつながるものと確信している。
【参加者の反応】「つるし柿とチーズの料理が美味しい」「クイズがあったことで南越前町がどのような町か知ることができ、身近に感じた」といった肯定的な声を多くいただいた。加えて、イベント参加者の中には外国人旅行者もおり、つるし柿の味やストーリー性、見た目の特徴に対して高い評価が寄せられたことから、今後はインバウンド需要やグローバル市場を視野に入れた展開の可能性も感じられた。一方で、「他産地との比較があればより理解が深まった」という要望もあり、地域資源の独自性や価値を、他地域との対比を通じて客観的・多角的に伝えていく重要性を改めて認識した。
【活動を通じた自身の変化 】活動前は「このプロジェクトを通して南越前町を知らない人に影響を与え、町を少しでも良くしたい」という、どこか外部からの視点で考えていた。しかし、実際に現地を訪れ、生産者や住民の方々と対話を重ねる中で、町は「他人事」から「自分たちも深く関わるべき対象」へと変化した。今回の経験から、一度きりの活動で何かが劇的に変わるという考えではなく、信頼関係を築き、継続的に関わり続けることこそが必要不可欠であると痛感している。ワークショップの参加者がそうであったように、特産品や地域の背景にある「作り手の想い」や「ストーリー」を深く理解することは、その対象への強い愛着や支持を生む最短の道であると確信した。あらゆる物事の背景にある価値を汲み取る重要性を学び、今後も一人の関係人口として、南越前町の活動や商品に主体的に関わり続けていきたいと考えている。

■活動に関する写真等

明治大学
奥山ゼミ
企画
11/9
（日）
15:00～16:00
どなたでも参加OK!
入場
無料
ワンドリンク制
福井県南越前町　今庄つるし柿 収穫祭
～スモークつるし柿をつくって、
みんなで食べよう～
イベント概要
クイズ大会
試食会

KOTARO—BRAND

KOTARO—BRAND

KOTARO—BRAND
明治大学
奥山ゼミ
OKUYAMA SEMINAR
国